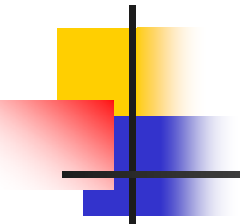


やきつべの里フォーラム活動報告



やきつべの里フォーラム

事務局長 鶴田光男



地域の特色

焼津市

駿河湾に面した焼津市は、水産業を基幹産業（カツオ水揚げ日本一）として発展。人口は約12万人で人口密度は県下一。

農業については、温暖な気候を活かし、山沿いではみかんやお茶、平坦地では、施設園芸や稲作が行われている。

東益津地区

高草山（標高501m）の麓に位置しており、「やきつべに、わがゆきしかば駿河なる、阿倍の市路に逢いし児らはも」と、万葉集にも謳われ、ヤマトタケル仁承にも語られている場所で、歴史・文化の宝庫でもあり、自然体験や農業体験の場にも恵まれている。

S46年に全国モデルコミュニティ地区に認定され「健康で明るく豊かなまちづくり」を目標として住民主体の活動が活発な地域であり、公民館と小学校が併設しているため、大人と子供の交流も盛んである。



やまづべの里フォーラムの概況

テーマ

“心・コミュニケーション・未来” 「豊かな自然」 「温かな心」

概況

「ふるさとの豊かな自然と歴史を守ろう、地域の人材（知恵・技術）を活かそう、地域の子は地域で育てよう」という共通認識のもとに、平成13年2月に設立。東益津地区の22の市民団体に構成。

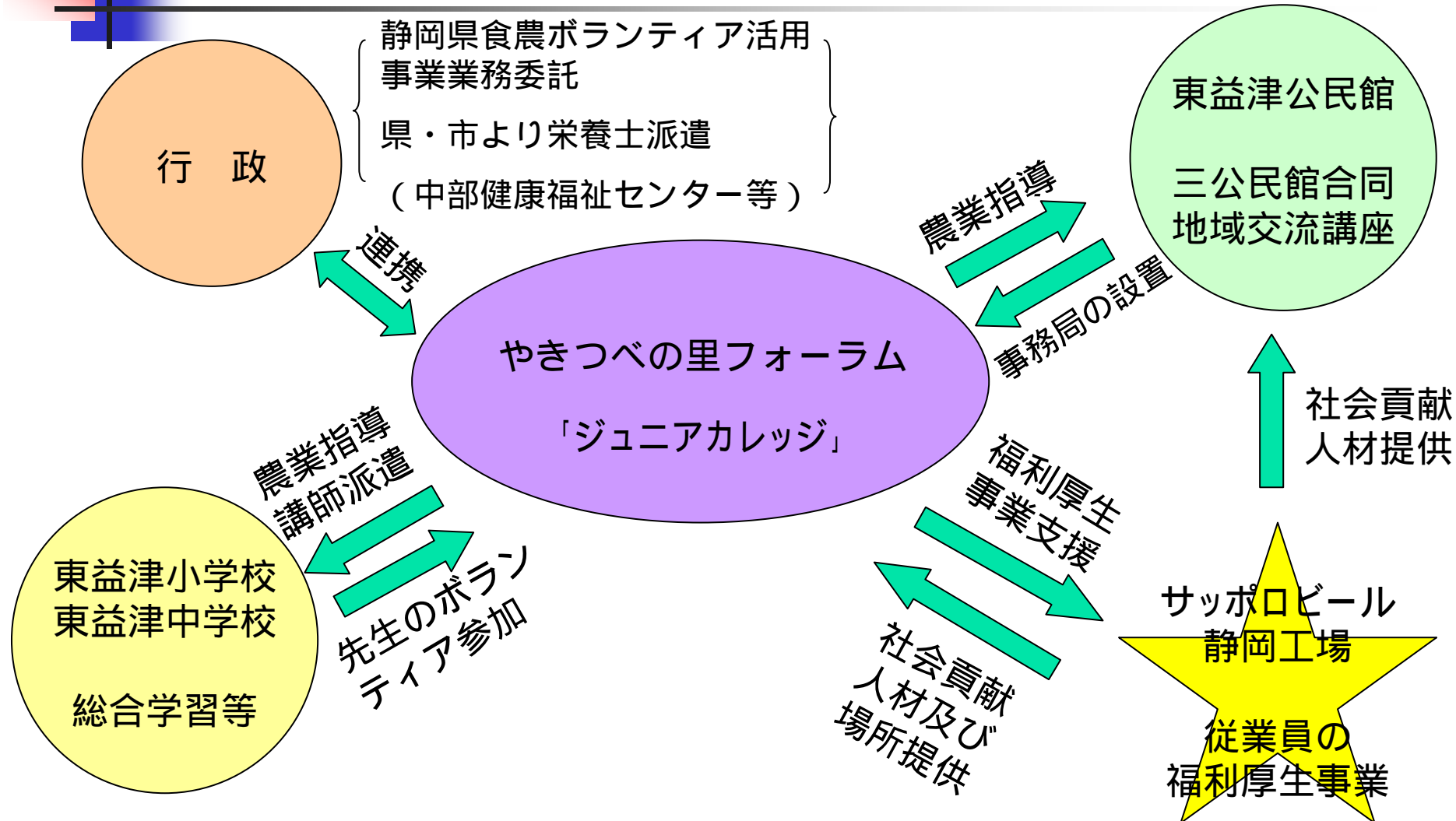
目的

1. 地域をフィールドとし、豊かな自然を慈しみ、温かな心を育む活動を展開する。
2. 公民館、幼稚園、小・中学校と協力し、地域の子どもたちの健全な発達を促す。
3. 会員相互の親睦を深め、地域の文化の高揚に寄与する。
4. 東益津地域の環境保全に寄与する。

活動

1. ふるさとジュニアカレッジの指導助言。
2. 東益津地域の各団体と交流を図り、団体の活動を支援。
3. 焼津市内の公民館活動との共同事業。

農業体験による各団体との連携





三公民館地域交流講座 (MYライス作り)

目的

開設の趣旨は、農業体験がなく、米がどのようにしてできるのか、又、どうしてご飯になるのかよくわからない、それが子供だけでなく、大人の中にも知らない人が増えており、米作りを体験したいという声もあったため。

概況

平成17年から親子での稲作体験を実施。もみまきから収穫まで年7回の講座。また、この講座には子供会も食農体験として参加。参加費千円。

東益津公民館、焼津公民館、大村公民館が合同で実施し、東益津公民館が事務局となっている。

平成17年度参加者	105名	(一般+山の手子供会)	延べ611名
平成18年度参加者	108名	(一般+岡当目子供会)	延べ705名
平成19年度参加者	130名	(一般+坂本子供会)	

稲作体験のほか、筍掘りやホテルウオッチングも実施。

MYライス作り活動状況①

5月



もみまき

苗箱にていねいにもみをまきました。

6月



田植え

裸足で田んぼに入っの田植え腰が痛く、大変な作業と実感。

7月



草取り

ジャンボタニシの卵がいっぱい。がんばって取りました。

7月



流しそうめん

高草山の自然の水と竹で流しそうめんを行いました。

8月



かかし作り

みんなでかかし作り。次々とアイデアがうかんできて、出来上がりに大満足。

10月



稲刈り

いよいよ稲刈り。はじめて持つかまに悪戦苦闘！

MYライス作り活動状況②



もみから精米までの実習体験

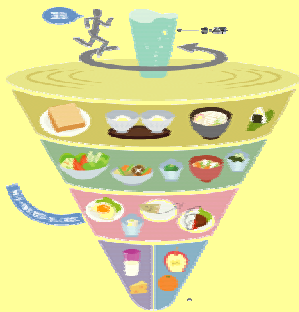


みんなでいっしょに、もちつき！。昔ながらの釜飯炊きも行いました。



米粉を使った料理教室。小麦粉よりもきめ細かく“だま”にならず、上手に出来ました。

1月 食バランスガイド講習



米粉料理と同時に食事バランスガイドを使っての栄養士さんから栄養指導を受けました。

MYライス参加者の声

- ・自分たちの経験できないことがたくさん学べてよかったと思う。農家の人たちの食品に対する気持ちが、たくさんわかったように思う。
- ・子供たちも親にも改めて考えさせるいい機会だったと思う。
- ・衣食住の基本的知識を子供たちには身につけさせたいので、このような食の基本を体験を通じて学べるイベントは貴重だと思う。
- ・お米作りに毎回参加させて頂きましたが、お米作りの大変さがわかりました。



小学校での取組（総合学習等）

目的

総合的な学習の時間において、地域の方と連携してお米づくりを行うことを通じて、過程や苦勞を学習する。

概況

東益津小学校：小学5年生 稲作体験 小学2年生～3年生 野菜作り
焼津南小学校：小学5年生 バケツ稲

小学2年生～3年生の野菜作りはジャガイモ、玉ネギを栽培、収穫した後カレー作りを実施。

稲作体験は古代米（もち）を植え、もみまきから始まり、年間9回（平成19年度は10回を予定）講座を実施。

平成19年度は東益津小学校で大豆・さとうきびにも挑戦。

東益津小学校では小学5年生が体験内容を寸劇にして発表会を開催。

小学校での活動状況①



稲作を本格的に知ってもらうためにもみまきから実施。



生まれてはじめて経験する子ども。土の感触を感じながら苗を植えました。



どろんこになりながらも一生懸命、ジャンボタニシや草を取りました。



どのかかしも、とてもユニークにできました。



気持ちの良い秋空の下、たくさん収穫することができました。



もみから精米になるまでの行程を、しっかり勉強しました。

小学校での活動状況②

11月

もちつき

公民館祭りの日に実施。大成功で、自分で作ったもちに満足。

12月



しめかざり作り

最初は手間取ったけれど、全員が完成。お正月に飾りました。

1月



米粉クッキング

米粉を使ったマドレーヌを作りました。おいしいと大好評。

2月



発表会

地域の人たちに、自分たちの学習したことを発表しました。オペレッタは大好評でした。

2月及び6月



野菜作り

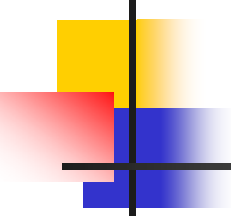
2年生の時の2月にじゃがいもとタマネギの植え付けをし、3年生の時の6月に収穫しました。

平成19年5月



大豆・さとうきび畑

今年は、小学5年生が稲作の他、大豆やさとうきびの栽培にも挑戦しました。



ジュニアカレッジでの取組

目的

地域の素材を最大限に活用し、「地域で学び、地域を学び、地域に学ぶ」。

概況

農業体験の他様々なイベントを実施。（竹細工や凧作りなど）

対象は東益津地区の子供。

参加者は平成17年度171人、平成18年度100人、平成19年度41人。

農業体験はさつまいもを栽培。また、サッポロビール工場敷地内にてひょうたんの栽培を行い、ひょうたん飾り作りを行っている。

ホタルの幼虫を3月に放流し、ホタルウォッチングを5月に開催。

サポーターとして東益津地区在住の学生（中・高・大）が参加。

ジュニアカレッジでの活動状況



さつまいも作り

収穫したさつまいもで、焼き芋パーティーを実施。



ひょうたん飾り

サッポロビール静岡工場より敷地の提供を受け、地元志太瓢箪愛好会の協力も得て、ひょうたんを栽培、ひょうたん飾りを作成。



その他の活動状況（抜粋）



サッポロビール静岡工場社員筍掘り

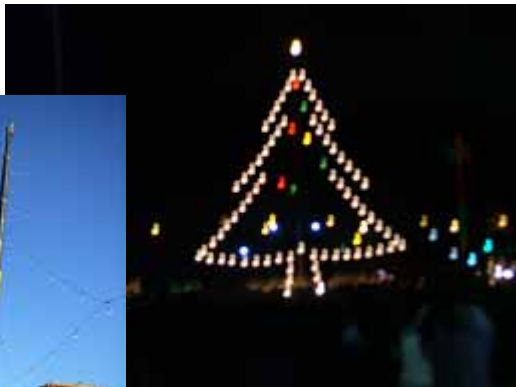
サッポロビール静岡工場の従業員の厚生行事を企画・実施。高草山にて筍掘り、採れたての筍を使っての料理づくり、餅つきを体験。また地元の史跡（旗懸石）紹介も実施。

普段は出来ない体験に従業員も感激。

クリスマス・イルミネーション

クリスマスイブ前日に、高草山と東益津小学校に、イルミネーションを設置。

東海道線（在来及び新幹線）から見る事ができる。





農業体験による成果

- ・子供たちの農業を見る目が変わり（興味がでてくる）、農作業を続けて行くにつれ、進んで作業するようになった（やる気がでてきた）。
- ・農作業を体験することによって、“堀さらい、うね切り、尺なわ、ヒエヌキ、カナゴキ”などの昔から地域に伝わる言葉も覚えるようになった。
- ・自分たちで収穫し、調理して食べる喜びが実感できた。
- ・収穫したモチ米は、幼稚園、小学校、社会福祉協議会、保育所などの行事に寄贈し喜ばれている。
- ・この取組の様子を見ていた地元の方々からの協力、援助が増えてきたことにより、地域内の親睦が深まった。
- ・子供たちに伝統的な行事を大切に思う気持ちが芽生えてきた。



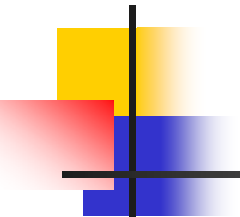
今後の課題と行政への要望

課題

- ・定年退職者を中心にボランティア活動を展開しているが、後継者（次期リーダー）の確保が課題。特に平日に活動できるメンバー。
- ・安定した財源の確保が課題。これまで行政や企業の助成金、委託金等を活用しながら事業を継続してきた。労力は無償提供できるが、機械借上代や情報誌発行のための消耗品等の負担が大きい状況。

行政への要望

- ・農業体験ほ場の税金の優遇措置や、農地を任意団体が借りやすくしてもらいたい。
- ・今後、継続的に実施していくうえでの経費援助。
- ・参加者には低年齢層もふくまれるので、子供（低年齢）用の栽培に関する資料が必要。
- ・農業体験実施者のネットワーク化をはかり、意見交換会などの交流の場の提供。



活動のまとめと今後の構想

活動のまとめ

東益津地区の農業体験講座は、平成13年にやきつべの里フォーラムを設立し、同フォーラムに参加する団体の協力を得て、本格的に実施するようになりました。当初の活動は、東益津地区のみでありましたが、公民館が3公民館地域交流講座（東益津・大村・焼津）を実施することによって、地域交流の輪が広がりました。この他、企業（サッポロビール静岡工場）にも協働してもらうなど、様々な団体と連携がとれるようになりました。フォーラムの活動がここまでできるようになったのは、公民館と小学校が併設しており、子供と大人が非常に交流しやすい環境であることや、参加してくれるボランティアの方々の熱意、関係団体（企業、市、学校など）の地域交流への理解のおかげです。これからの活動も、いきなり大きなことから始めず、あせらず小さなことからコツコツと、地道にやっていくことが必要だと思います。“子供”というのはまだ未完成であり、可能性がいっぱいつまっています。この無限の可能性を広げるお手伝いができればと思っています。

今般、このような活動が認められ、平成17年静岡県教育委員会表彰を受賞し、また、サッポロビール静岡工場のCSR（企業の社会的責任）レポートへも掲載されるなど、周りからの評価も受けるようになりました。

今後の構想

今後の後継者作りに繋げていくための活動。（大学生ボランティアの受入れ等）
新しい農産物栽培へのチャレンジ。